

景気とヒット曲の傾向と関係

1年1組 高田 悠作 1年2組 高田 裕生 1年2組 兵頭 明樹
 1年2組 松浦 悠 1年3組 関本龍一郎 1年4組 岡田 陽汰
 指導者 岩村 崇

1 課題設定の理由

先行研究（加藤ら, 2012）によると1968年から2010年の間では景気が良い時には、暗い曲（短調の曲）、景気が悪い時には明るい曲（長調の曲）が流行するという傾向があることが分かった。そこで、先行研究で調べられていない2011年以降もこの傾向は続いているのかを明らかにするために本課題を設定した。

2 仮説

現在では、様々なインターネットやスマートフォンなどの媒体が普及したことで、日常生活で音楽を耳にすることが増えた。そのため、先行研究結果で見られた音楽と景気の関係性は、先行研究とは異なり関連性はなくなっている。

3 実験・研究の方法

- (1) 2011年から2019年のBillboard JAPAN年間チャートトップ30の曲を調べる。
- (2) 該当した曲(邦楽)の曲調を調べ、割合を表・グラフ化する(表1・図1)。
- (3) ガベージニュースの実質GDP前年度比のグラフを用いる。
- (4) 表1と図2を照らし合わせて傾向を探る。

表1 長調・短調の分類

西暦	GDPの前年度比	長調	短調	洋楽
2011	-1.8	16	3	11
2012	0.7	17	4	9
2013	1.7	19	5	6
2014	2.1	22	3	5
2015	3.4	21	5	4
2016	0.8	26	3	1
2017	1.9	11	11	8
2018	0.2	17	4	9
2019	1.3	19	8	3

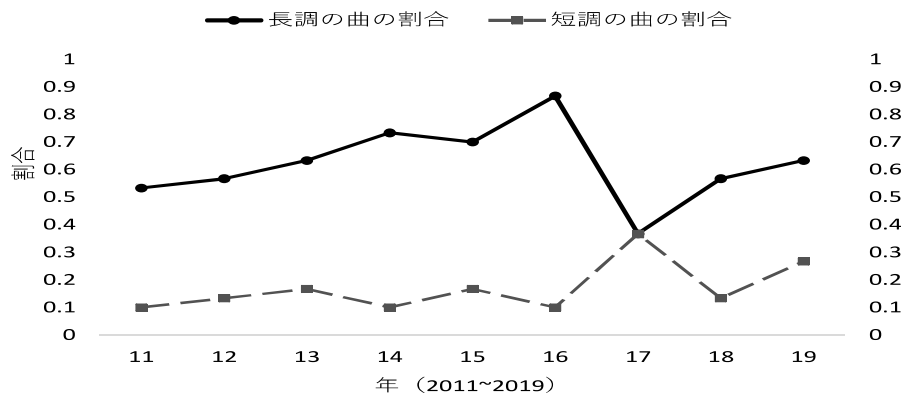


図1 流行曲の調別の割合の推移

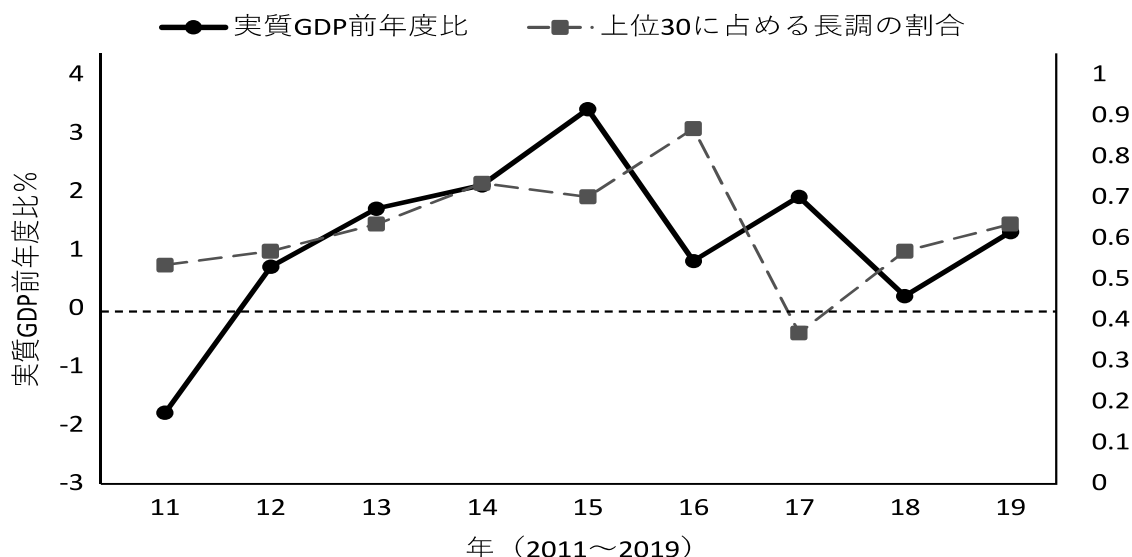


図2 実質GDP前年度比と長調の曲の割合の推移

4 結果と考察

図2より2011年から2014年の間では、実質GDPのグラフと音楽のグラフには、これまでのような景気がいい時に短調が流行る関連性は見られなかった。しかし、2015年から2019年の間では、景気がいい時に短調が流行り、景気が悪い時に長調が流行る傾向が見られた。また、2014年代にスマホの普及率が50%を超しているため、私たちの予想と反し電子機器が普及したことにより好みの音楽を手軽に聴けるようになったと考える。

5 まとめと今後の課題

今回の研究では、日本国内のみに焦点を置いていた。そのため海外にも視点を当ててみようと思った。また、ロックやポップなどのジャンル別に分類したり、歌詞にも着目してみたりするなど、調査することができなかったことも調査したいと思う。

参考文献

- ・ 早稲田大学基幹理工学部表現工学科 <http://www.ias.sci.waseda.ac.jp/>
- ・ Billboard JAPAN <http://www.billboard-japan.com>
- ・ ガベージニュース <http://www.garbage news.net/archives/1060924.html>